

平成 31 年度 大阪市立水都国際中学校

運営に関する自己評価



大阪市立水都国際中学校・高等学校
Osaka City Suito Kokusai
Junior & Senior High School

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入をめざしている。国際バカロレアの認定を受ければ、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。さらに、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の教科において英語を用いた授業を実施している。

しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、英語にサポートが必要な生徒の支援体制を構築することが喫緊の課題である。本校の教育理念に基づき、多様な背景を持つ教職員によって組織を構築し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取組を進めている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**全市共通目標**

- ・平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- ・平成 32 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒を出さない。
- ・平成 32 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒を出さない。

学校園の目標

- ・平成 32 年度末の生徒アンケートにおいて「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を平成 31 年度からの 2 年間で全体の 90%をめざす。
- ・平成 32 年度末の生徒アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を平成 31 年度からの 2 年間で全体の 90%をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**全市共通目標**

- ・平成 32 年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・平成 32 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- ・平成 32 年度中学生チャレンジテストにおける得点が府の平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。
- ・平成 32 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

学校園の目標

- ・平成 32 年度 AAPPL テスト（ウェブベースの 4 技能を測る英語外部試験）において、中学校 2 年生修了段階での英語実用検定準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 80%以上にする。
- ・平成 32 年度 AAPPL テストにおいて、中学校 2 年生修了段階での英語実用検定 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。
- ・平成 32 年度末に実施する授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%にする。
- ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
- ・校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒を出さない。
- ・校内調査において、新たに不登校になる生徒を出さない。

学校園の年度目標

- ・平成 31 年度末の生徒アンケートにおいて「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を全体の 70%をめざす。
- ・平成 31 年度末の生徒アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

学校園の年度目標

- ・平成 31 年度 AAPPL テスト（ウェブベースの 4 技能を測る英語外部試験）において、中学校 1 年生修了段階での実用英語検定 3 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。
- ・平成 31 年度 AAPPL テストにおいて、中学校 1 年生修了段階での実用英語検定準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。
- ・平成 31 年度末に実施する授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と回答する生徒の割合を全体の 70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

開校1年目において、日々試行錯誤を繰り返しながら、常に生徒と向き合い、本校の教育理念である3E（Encourage, Engage, Empower）に立ち返り、生徒自身が主体的に考え行動し、挑戦し続けられるような環境構築を行ってきた。

すべての教科において、課題探究型学習に取り組み、アクティブ・ラーニングの充実を図ってきた。課外活動においても主体的かつ積極的に取り組む場面が多くあり、多様な他者と議論を繰り返しながら、プロジェクトを成功させてきた。

英語教育について、AAPPL テスト（ウェブベースの4技能を測る英語外部試験）において入学当初の英語力と11月時点のものと比較すると、大きな向上が見られた（令和元年11月時点 Speaking B2 レベル：1人、Speaking B1 レベル：12人、Writing B1 レベル16人）。さらに令和2年1月に実施された大阪府チャレンジテストにおいては、大阪市の英語科の平均値を大幅に上回った。特に英語による授業を実施している理科や数学においては、大阪市においてトップクラスの成績を収めることができた。

大阪市立水都国際中学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%にする。 ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒を出さない。 ・校内調査において、新たに不登校になる生徒を出さない。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度末の生徒アンケートにおける「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を全体の70%をめざす。 ・平成31年度末の生徒アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%をめざす。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の推進 南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラム作成し、実践する。</p> <p>指標 ・火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 安全教育の推進 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保を日常生活において実践できるようにする。</p> <p>指標 ・インターネット、SNS等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。 ・インターネット被害防止対策に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 道徳教育の推進 LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと教材を活用したワークショップを通して、一人ひとりの個性を認め、自己表現のスキルを伸ばし、異文化理解を深めるカリキュラムを作成し、実践する。</p> <p>指標 ・道徳教育推進委員会を中心に「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 ・評価に関わる研修を年に1度以上実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを実施した。結果について学年団等で検討し、個々の生徒への対応及び家庭との連携による教育支援を行っている。また、いじめを考える日、ピンクシャツデー（いじめをなくす啓発運動）を行い、生徒一人ひとりのいじめ及び人権課題に関する意識向上を行った。 ・防火訓練・防災訓練を実施した。また地域連絡協議会主催の地域防災訓練に参加するなど生徒の意識向上及び地域との連携協力を努めた。 ・生徒会内に SNS コミッティを創設し、生徒主体の SNS リテラシーの向上啓発、学校主体の SNS 及びインターネットリテラシーの向上研修、インターネット被害防止対策研修を行い、生徒・教職員の意識向上に努めた。 ・道徳及び国際理解教育を学内のリソース及び学外からゲストスピーカーを招いて実施し、生徒の異文化理解を深めた。 	

次年度への改善点

- 生徒の主体性の意識向上めざした教育活動をより推進するため、教職員と生徒との協働プログラムによる啓発活動を増やす。
- いじめや人権課題に関する意識向上を管理運営法人である大阪 YMCA のリソースも十分に生かしながら、生徒・教職員の意識向上に努める。
- インターネットリテラシー向上をめざし、本校の ICT 担当者とマーケティング担当者が中心となり、ICT の活用をさらに充実させた教育活動を展開する。
- 学外のリソースを取り入れた特色ある異文化理解教育を進める。

大阪市立水都国際中学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度 AAPPL テスト（ウェブベースの 4 技能を測る英語外部試験）において、中学校 1 年生修了段階での実用英語検定 3 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。 ・平成 31 年度 AAPPL テストにおいて、中学校 1 年生修了段階での実用英語検定準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。 ・平成 31 年度末に実施する授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と回答する生徒の割合を全体の 70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進</p> <p>本校の教育理念である3E(Encourage, Engage, Empower)のもと、社会に貢献する協創力をみがく。</p>	A
<p>指標</p> <p>・中高合同の教員研修を学期に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 英語教育の強化</p> <p>英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の教科において英語を用いた授業を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科の授業において実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】について指標については全ての項目で指標を上回った。 ・英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行い、生徒の英語力向上が見られた。 ・「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進を行い、単元ごとの授業時間において実施の割合50%をめざし、中高合同の教職員研修を行った。 ・英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の教科において英語を用いた授業を行い、英語を活用したプレゼンテーションプログラムを実施した。 ・管理運営法人である大阪YMCAのリソースを生かし、海外大学からのインターン生の長期受け入れ、海外からの訪問者受け入れなどグローバルマインドを育む多様な体験機会を提供し、生徒の意識の向上を図った。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上をめざし、継続的なアンケートを実施し、分析を行い教育活動の質の向上を図る。 ・生徒の社会参画意識の向上をめざし、学外のリソースを活用し、学外でのプレゼンテーションの機会を増やす。 ・民間の知見を活かした生徒の国際理解、グローバルマインドを育む取組としての機会をより一層増やす。 ・英語で行う授業においてサポートが必要な生徒の支援体制を構築する。 ・校内にメディアセンターを設置し、ITCをさらに充実させた学校運営及び教育活動を展開させる。 ・初年度に得た知見について、大阪市を中心とした教育関係者及び機関に提供する機会を増やす。 	